

## &lt;史料紹介&gt;

## 第四高等中学校学友会雑誌について

Research for the Forth Higher Middle School Students' Society Bulletins

東京大学教員 谷本 宗生  
資料館客員研究員

## &lt;問題の設定&gt;

筆者（谷本）は以前、「金沢大学所蔵の第四高等学校関係資料」『北陸史学』第49号（2000年11月）のなかで、『第四高等中学校学友会雑誌』について言及したことがある。その際にも実感したことであるが、第四高等学校校友会誌『北辰会雑誌』に比べて『学友会雑誌』は十分に研究上で活用されているとはいえない状況がある。それには、いくつかの事情があるのではないかと想像される。1つには、『学友会雑誌』は全7号で1年3ヵ月間（1893年2月～1894年5月）という短命雑誌である点が挙げられる。さらに、県立及び市立の図書館などで所蔵される『北辰会雑誌』に比べ、『学友会雑誌』は金沢大学附属図書館で所蔵される冊子のみである。しかし、いまだ解明されていない課題が多い明治期の高等中学校研究にとって、『第四高等中学校学友会雑誌』は現存する貴重な文献史料であるゆえ、もっと注目されて大いに検討される必要があろう。

第四高等中学校の設立当初、血気盛んな生徒らが教育上怠惰と思われる教官をしばしば糾弾することがあり、1892年（明治25）年3月には2生徒退学の取消し処分を求めた生徒ら240余名が一時同盟退学となる騒動も生じる（後、生徒の多くは復学する）。校長の中川元は、県専門学校以来の古参教員らを罷免して、狩野亨吉や浦井鏗一郎といった学士教授を採用するなど、校内の刷新を在任中に断行していく。第四高等中学校学友会は、中川校長のもとで1892年10月に発足したものである。会の構成員は本部生徒を通常会員、本部教職員を特別会員などと規定し、運動部（撃剣部・弓術部・ベースボール部・フットボール部・陸上運動部・相撲部・遠行部）と学芸部（法文会・理学会・演説討論会・雑誌編集委員）を有した。中川の言によれば、学友会の目的は「文ヲ脩シ武ヲ講シ或ハ運動会ニ遊び或ハ或ハ山川ヲ跋涉シ以テ智ヲ磨キ以テ徳ヲ修メ以テ体ヲ養ヒ文弱ニ流レズ武愚ニ陥ラズ克ク柔ニ克ク剛ニ中庸ヲ得ルニ在リ」（『学友会雑誌』1号）とされた。文武の一致、学友一同の団結をその目標としたといえる。

『学友会雑誌』は会員投稿を旨とし、「政治を論じ或は徳義に背くものは一切掲載致さざるべし」という掲載基準が設けられる。論理・歴史等の担当教授である秋山正義も、通常会員らに対して「唯余か諸君に望む所のものは弁論文章両ながら學術の範圍を脱せざるにあり」（1号の論説）と強調している。当初期待された積極的な通常会員からの投稿は、全7号をとおしてあまり芳しくなく、特別会員らの投稿が主流であったといえる。編集委員らは「わが雑誌を評していへらく『教授諸氏の金玉列なりて通常会員の文章少きの観なき能はず』とあわれわが会員諸君よ、諸君は此評をみて如何なる感かある…再び彼の言を吐かしめんと欲するか、通常会員諸君よ諸君にしてつとめざれば、此雑誌をいかにせん、あはれ」（2号の雑録）と叱咤激励するなどの努力をはかっているが、第

7号をもって「最終の編集」として打ち切りとなる。中川校長が「龍頭蛇尾ノ嗤笑ヲ招クコトナク且他ノ学校ニ好模範ヲ示スニ到ラン」と期待した学友会も、中川らの転出を受け生徒らの内部的な紛糾もあって1894年8月には解散となる。

実際には通常会員らの投稿が振るわなかった『学友会雑誌』ではあるが、中川らの試みが総じて失敗であったと判断し評価するのは早計であろう。『学友会雑誌』の「雑報」欄に注目してみると、従来あまり知られていない高等学校の運動部や学芸部の活動や学校内の行事などが垣間見え、茶話会や遠行（遠足旅行）などによって生徒らの親睦や鍛練といった教育的な効果をあげていたものと想像される。その一部ではあるが、いくつか特徴的な活動や動向を「雑報」欄から拾ってみたい。

#### 1号雑報「茶話会」より抜粋。

「〔明治25年〕十二月廿五日忘年会を兼ね第一回茶話会を開く此日寒気強く雪花空に翻りしに係はず来会者の多かりしは本会のため賀すべきとなりし中川会長先づ壇に上り簡単に開会の趣旨を述べ続きて室鳩巢伝及び其作駿台雑話中の四五を選びて談せられたりに会員木村竹治郎君深町鍊太郎君の演説あり了りて団欒麦茶を飲み香菓を喫し膝を交へて懇談漏〔ママ〕を移すに起て剣舞するものあり壯快真に喜ふへし折節一生意の手品を演じ衆をして哄然たらしむ吁壯絶交ゆるこの妙絶を以てす真に快絶とこそいふべけれ」

#### 3号雑報「剣術部野試合」より抜粋。

「同日〔明治26年4月18日〕式終るや剣術部会員は城南大乘寺山に於て野試合を催せり試合前後二回前者勝敗なく後者利白軍にあり（此日両軍進退度あり旗幟明かに自ら古風を風る）来き会する者凡そ百五六十内試合に出づる者七八十試合終り一同環坐杯を挙げ歡を尽くして退散す時に午後四時」

#### 4号雑報「卒業生諸君送別会」より抜粋。

「吁我卒業生諸君は多年蜚雪苦学の結果、今や高等中学を終へて將に大学に入らんとす、諸君は笈を負ふて遠く東都に赴く、吾人は旧に依りて此地に研鑽に従事す、別離の情豈殷ならざるを得んや、〔明治26年〕七月九日、諸君の送別会を野田寺町鏝甚楼に開く、会する者、大島校長及秋山澤田木村浦井村上諸教授を始め生徒諸氏凡そ百名許なり、午後三時会を始め…大島校長の演説あり、已にして卒業生諸君万歳第四高等学校万歳を唱へて一同杯を挙げ、献酬織るが如く、談話濃かなり、酒酣にして興愈加はり、玉山將に崩れんとす、時に暮靄四山を罩め金鳥酉天に舂く、乃ち歡を尽して散会す」

#### 7号雑報「臥龍山の山遊」より抜粋。

「学期試験終りたれば予科第二年生は一同臥龍山に運動会を催せり競争、綱引、旗奪等頗る雄壯を極めたりとてこれ〔明治27年3月〕三十一日のことなりかし奇氣喜ふへし」

できるならば『第四高等学校学友会雑誌』全7号は電子化して、金沢大学学術情報リポジトリのKURAなどを介してデータをひろく公開してほしいと考える。以下、『学友会雑誌』全7号の基礎的な目次情報を一覧化して示しておく。

#### <目次情報>

学友会雑誌第1号〔明治26年2月3日〕の目次

勅語

創立趣意書

祝詞 校長中川元 祝詞 助教授須藤求馬 祝詞 教員高橋富兄 祝詞 1部1年国府長松

論説

校友会雑誌の発行に際し通常会員に諸君に望む 教授秋山正議〔1頁〕

或問に答ふ 教授浦井鋳一郎〔1～9頁〕 幸不幸 1部2年深町愚哉〔9～11頁〕

雑録

奈良朝歴史の概略 教授木村竹治郎〔11～14頁〕 動植物学書案内 教授岡村金太郎〔14～18頁〕

文苑

過篠原古戦場記 教授函峰村上珍休〔18～19頁〕 詩歌十数首〔19～21頁〕 漫筆 愚哉生〔21～22頁〕

雑報

発会式〔22～23頁〕 茶話会〔23頁〕 新正慶賀式〔23～24頁〕

弓術部射初式〔24頁〕 撃剣部稽古初式〔24～25頁〕 新年宴会〔25～26頁〕 本校の栄誉〔26～27頁〕 一片の謝状〔27頁〕

会報

数件〔27～30頁〕

附録

第四高等学校修学旅行記事〔31～40頁〕 行軍余談〔40～43頁〕



校友会雑誌1号表紙

第2号〔明治26年4月19日〕の目次

論説

古代航海業の大要を述べて「ころんぶす」の米国発見に及ぶ 教授浦井鋳一郎〔1～11頁〕  
人は万物の霊なるか 中川友次郎〔12～18頁〕 點論 深町鍊太郎〔18～22頁〕

雑録

動植物学書案内 教授岡村金太郎〔22～27頁〕 通常会員諸君に告ぐ 嘸々生〔27～30頁〕

文苑

三善清行論 教授函峰村上珍休〔30～31頁〕 高野まうて 助教授須藤求馬〔32～39頁〕  
亡き父をおもひ出でて がげろふ〔39～41頁〕 漫筆 愚哉生〔42～43頁〕 詩歌十数首〔44～46頁〕

雑報

校長の更迭〔47頁〕 送別会〔47頁〕 中川校長の出発〔47～48頁〕 紀元節拝賀式〔48頁〕 校長臨任式〔48頁〕 行軍〔48頁〕 ベースボール大会〔48頁〕 遠行部会員の遠行并に記事〔48～52頁〕

批評

校友会雑誌第一号評 不佞生〔52～58頁〕

### 第3号〔明治26年6月23日〕の目次

#### 論説

「ころんぶす」の米国発見 教授浦井鏗一郎〔1～9頁〕 経済管見 小倉正恒〔9～12頁〕  
志論 堀内秀太郎〔12～15頁〕

#### 雑録

能登めぐり 漁翁〔16～24頁〕 何をか万国史と謂ふ又之を学ぶの目的如何 訳半田寅之助〔24～27頁〕

#### 文苑

長崎公園記 教授函峯村上珍休〔27～28頁〕 擬與阿倍仲麻呂書 愚哉生〔29～30頁〕  
高野まうで 助教授須藤求馬〔30～37頁〕 河内鉾山に遊びて 稜南生〔37～41頁〕  
怪鴉 T. N. 生 訳〔41～46頁〕 詩歌数十首〔46～50頁〕

#### 批評

学友会雑誌第二号評 朴訥生〔50～52頁〕

#### 雑報

春期休暇〔52頁〕 花候〔52頁〕 記念日と種樹日〔52～54頁〕 剣術部野試合〔54頁〕 木津観桃花〔54頁〕 発火演習〔54頁〕 定期委員会〔55頁〕 臨時委員会〔55頁〕 総会議案提出者の注意〔55頁〕 定期総会〔55～57頁〕 蓮湖舟游〔57頁〕 辞職帰郷〔57頁〕 参観〔58頁〕 理学会〔58頁〕 君登鞍岳我蓮湖〔58頁〕 各部新撰委員〔58～59頁〕 謝し且望む〔59頁〕 運動部各部日割〔59頁〕 法文会〔59頁〕 本会幹事〔59頁〕 本会資金〔60頁〕 朝稽古〔60頁〕 高等中学校校長会議〔60頁〕 忌引〔60頁〕

#### 附録

第四高等学校修学旅行日誌〔60～63頁〕

### 第4号〔明治26年10月23日〕の目次

#### 論説

大学校の由来 浦井鏗一郎〔1～8頁〕 光学上の大発明將に起らんとす 教授澤田吾一〔8～12頁〕 勅聖の一語に原き生徒諸子に告ぐ 村上珍休〔12～16頁〕

#### 雑録

植物園手引 岡村金太郎〔16～23頁〕 二個の直角定規を以て一  
数の立方根を発見する法  
在理科大学う、な、生〔23～26頁〕

#### 文苑

祭旧水戸藩士文 函峯村上珍休〔27～28頁〕 文話 孤鴻〔28～32頁〕 立山紀行 秀巖仙史〔32～35頁〕 詩歌数十首〔35～37頁〕  
俳諧 日置謙〔37～38頁〕

#### 批評

第三号をよみて 無哉子〔38～40頁〕



学友会雑誌4号目次

雑報

学年試験〔40頁〕 卒業証書授与式〔41～46頁〕 大学入学生の志望学科〔46頁〕 ヒントンの渡米氏〔46～50頁〕 卒業生諸君送別会〔50頁〕 大学卒業生〔50～51頁〕 砲兵演習参観〔51頁〕 会長の饗宴〔51頁〕 校長上京〔51頁〕 休業間開会の諸小会〔51頁〕 遠行〔51頁〕 新学年始る〔52頁〕 始業式〔52頁〕 前田侯爵〔52頁〕 新入学生〔52～53頁〕 新入会員を迎ふ〔53頁〕 職員任命〔54頁〕 補充科の廃止〔54頁〕 落成式〔54頁〕 学芸部運動部各小会開会日〔54頁〕 寄宿舎〔54頁〕 特待生〔54頁〕 鳴應会の解散〔54～55頁〕 鳴應会員と本会客員〔55頁〕 鳴應会員諸君に望む〔55頁〕 寄附金並に寄附雑誌〔55頁〕 矯風会〔55頁〕 臨時委員会〔55頁〕 臨時総会及茶話会〔55～56頁〕 重野文学博士の講演〔56～57頁〕 松根遠行〔57頁〕 本誌題字〔57頁〕 法科大学政治学科第一年級の状況〔57頁〕 寄贈雑誌〔58頁〕 図書増加〔58～60頁〕

附録

重野文学博士の講話〔60～64頁〕

第5号〔明治26年12月13日〕の目次

論説

倫理の私考 村上珍休〔1～10頁〕 先哲そくらてすの話 浦井鏗一郎〔10～17頁〕

雑録

能登めぐり 漁翁〔17～25頁〕

文苑

八百松楼譚集画卷引 村上函峯〔25頁〕 游立山温泉記 呉陰生〔26～27頁〕 詩十数首 中尾熱童、秀巖、閑齋、三笑生〔27～28頁〕 宿舎の夢 在法科大学不生不死生〔28～30頁〕 立山紀行 秀巖〔31～34頁〕 山中八景 一清庵吐虹〔35～38頁〕

雑報

新築落成式〔1～15頁〕 無声堂の開場式〔15頁〕 天長節拝賀式〔15頁〕 本校縦覧〔15頁〕 運動会延期〔15～16頁〕 運動会記事〔16～20頁〕 秋風老矣〔20頁〕 実弾射的演習〔20頁〕 法文会〔20頁〕 理学会〔20頁〕 ベースボール大会〔20～21頁〕 委員会〔21頁〕 矯風会〔21頁〕 横山正誠君逝矣〔21頁〕 記念書冊〔21頁〕 那谷行〔21～22頁〕 法文会〔22頁〕 委員変更〔22頁〕 新任教授と助手〔22頁〕 行軍〔22頁〕 医学部卒業証書授与式〔22頁〕 寄附雑誌〔22頁〕 寄附金〔22頁〕 会員諸君に望む〔22頁〕 正誤〔22頁〕 時習寮〔22～27頁〕 鳴應部記事〔27～36頁〕

附録

行軍記事〔36～39頁〕

第6号〔明治27年2月17日〕の目次

論説

そくらてすの話 浦井鏗一郎〔1～8頁〕 生物学の応用 岡村金太郎〔8～12頁〕 片簞漫言 芝湖迂童〔12～16頁〕

雑録

能登めぐり 漁翁〔16～22頁〕 何をか万国史といふ且之を学ふ目的如何 沢半田寅之助〔23～26頁〕

文苑

読荀子 函峯村上珍休〔26～27頁〕 読島原戦争記 函峯村上珍休〔27～29頁〕 詩歌十数首〔29～31頁〕 立山紀行 秀巖〔32～37頁〕

批評

前号の評 井の蛙〔37～39頁〕

雑報

学芸部小会〔40頁〕 体操科副科〔40頁〕 学期試業〔40頁〕 茶話会〔40頁〕 迎新〔40頁〕 年賀式〔40頁〕 討論会〔40～41頁〕 武術稽古初〔41～42頁〕 新年会〔42頁〕 体操科副科日割〔42頁〕 義捐金〔42頁〕 理学会〔42～43頁〕 臨時委員会〔43頁〕 寄贈雑誌〔43頁〕 訂正〔43頁〕

第7号〔明治27年5月7日〕の目次

論説

金沢市近傍の地質 岡村金太郎〔1～16頁〕 共産主義を論ず 小倉正恒〔16～20頁〕 論文 大味久五郎〔20～23頁〕 豊秋津洲 日置蓬心〔23～28頁〕

文苑

送日下君還東京序 函峯村上珍休〔28～29頁〕 菅公画像賛 村上珍休 詩歌十数首〔30～32頁〕 亡友湯川義一君を想ふ 孤鴻子〔32～34頁〕 野田紀行 在法科大学愚哉生〔34～40頁〕 立山紀行 秀巖〔40～52頁〕

批評

前号を読む 一清庵吐虹〔52～55頁〕

雑報

大婚二十五年御祝典〔56～57頁〕 法文会〔57～58頁〕 理学会〔58頁〕 紀元節〔58頁〕 演説会〔58～59頁〕 湯川辻二君逝去〔59～60頁〕 武者修行来校〔60頁〕 画学会〔60～61頁〕 花輪教授の来任〔61頁〕 ベースボール大会〔61頁〕 文学会〔61頁〕 遠行と舟遊〔61頁〕 狩野教授の辞職〔61～62頁〕 学友の罹災〔62頁〕 第二学期了る〔62頁〕 臥龍山の山遊〔62頁〕 春季休暇〔62頁〕 神武天皇祭日〔62～63頁〕 花候〔63頁〕 野田教授〔63頁〕 工科生の測量〔63頁〕 第三学期始まる〔63頁〕 狩野教授送別会〔63頁〕 任命三件〔63頁〕 行軍の揭示〔63頁〕 「ロンテニス」〔63～64頁〕 時習寮の転室〔64頁〕 時習寮蔬菜園〔64頁〕 木津桃花〔64頁〕 「ベースボールマツチ」〔64頁〕 学校創立紀念日と種樹日〔64～66頁〕 弓術部遠的〔66頁〕 剣道部野試合〔66～67頁〕 校長の巡回と上京〔67～68頁〕 軍隊編成〔68頁〕 修学旅行発程〔68～69頁〕 教授の陞叙〔69頁〕 元教授の出発〔69頁〕 鳴應部紀事〔69頁〕 寄贈雑誌〔69頁〕



学友会雑誌 7号巻末